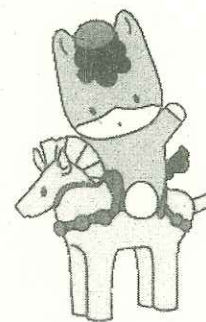


東国文化自由研究レポート



研究テーマ

群馬の宝『多胡碑』が伝える
真実とナゾ〜渡来人がもたらしたもの〜

提出日 2021年8月27日(金)



伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校

1年 2組 31番

氏名 宮川 里彩

1 研究の動機と対象

東国文化について調べようと思った時、私は、上毛カルタの中にヒントがあるのではないかと考えました。私は、小学生の頃、地域で行われていた上毛カルタ大会の団体戦に毎年出場していました。伊勢崎北地区大会では、2回優勝し、5年生の時には伊勢崎市の大会でも優勝することができました。そんな馴染みの深い上毛カルタですが、「誇る文豪田山花袋」とは、何をした人物なのか、「ループで名高い清水トンネル」とは、どこにあるのかなど、内容については意外と知らないことが多いと気づきました。

そこで、今回、「昔を語る多胡の古碑」の「多胡碑」を調べることで、気になっていた「渡来人」のことや群馬の文化とどのような繋がりがあるのかなど、東国文化を知る手がかりとして最適ではないかと思い、多胡碑に着目し研究しようと決めました。

2 多胡碑とは

〈1〉 多胡碑の基礎知識

- ・群馬県高崎市吉井町池字御門にある古碑。
- ・栃木県的那須国造碑や宮城県が多賀城碑とともに、日本三古碑の一つ。
- ・山上碑、金井沢碑とともに、上野三碑の一つ。
- ・奈良時代初めの和銅4年(711年)に上野国の14番目の郡として、多胡郡が建郡されたことを記念して建てられた石碑。
- ・碑文の中の「給羊」の文字は古くから注目されている。江戸時代には「羊太夫伝説」がつけられ、様々な角度から研究されている。地元では、「ひつじ様」と呼んで大切にされてきた。
- ・長い間、風雨にさらされていたが、明治時代に入ると国によって土台石や屋根を覆う整備がされ、1954年には国指定の特別史跡となった。
- ・終戦の時、「碑が占領軍に持ち去られてしまうのではないか」という不安から、地域の人達が自主的に土の中に石碑を埋めたという話もあるなど、大切に守られてきた様子が分かる。
- ・UNESCOによるMemory of the Worldの指定。

〈碑の現状〉

笠石・碑身・台石から構成され、方形の笠のような形で下部がへこんでいます。碑身は方柱状で上部に低いホゾ[突起物]があり、この上に笠石がのっています。牛伏砂岸といわれる花崗岩質砂岩を成形し、全面の平らな部分に縦書き6行で80字が丸底彫りされています。台石は第二次世界大戦後、コンクリート製に造り代えられました。



昔を語る
多胡の古碑

←1-A 昔を語る多胡の古碑

1-B ユネスコ「世界の記憶」登録証複製→



Column 1 ~Memory of the Worldとは?~

国際連合教育科学文化機関(ユネスコ)が主催する事業の一つです。危機に瀕した古文書や書物などの歴史的記録物(可動文化財)を保全し、広く公開することを目的として、1992年に創設されました。

日本で8ヶ所の登録があり、群馬の石碑群「上野三碑(こうずけさんび)」も選定されました。他には、山本作兵衛が描き残した筑豊の炭鉱画や、舞鶴引揚記念館が所蔵する東寺百合文書などが、選定されています。



Memory of the World

2-A 記憶遺産のロゴ

〈2〉多胡碑関連年表 (中→中華人民共和国 朝→朝鮮半島 日→日本 群→群馬)

西暦	国・地域	事項	解説
220	中	後漢滅亡	これ以降中国は大分裂時代になる
4世紀	朝	朝鮮半島の分裂体制固まる	高句麗・新羅・百済・伽耶(加羅)
5世紀	朝&日	渡来人到来	王仁・阿知使主・弓月君→養蚕・機織り・文筆
538 (552)	朝&日	日本への仏教伝来	百済:聖明王→欽明天皇
589	中	隋の中国統一	607 遣隋使(小野妹子)by 聖徳太子
618	中	隋滅び、唐建国	遣唐使で律令や土地制度を日本に導入
676	朝	新羅の朝鮮半島統一	
681	群	山上碑造立	碑文が日本語の語順→現在に繋がる日本語 仏教文化の東国への普及を示す
701	日	大宝律令	by 刑部親王&藤原不比等
710	日	平城京遷都	
711	群	多胡郡建郡	
712	日	『古事記』	by 太安万侶
720	日	『日本書紀』	by 舎人親王
726	群	金井沢碑造立	律令体制の東国への普及を示す
741	日	国分寺・国分尼寺建立の詔	仏教の全国的普及

〈3〉多胡碑の現地調査

① 多胡碑記念館

私は、調査のために、高崎市吉井町にある多胡碑記念館を訪れました。多胡碑記念館は、日本三古碑・上野三碑の一つである多胡碑の歴史的意義を発信するため、1996年4月、甘楽郡吉井町(現在高崎市吉井町)に開館しました。平成29年10月31日にユネスコ「世界の記憶」に認定されたことから、令和4年(2022年)3月31日まで、無料で入館することができます。

多胡碑は、記念館がある公園内にありました。写真3-Aは、公園内の様子です。上毛カルタの

絵にもあるように、多胡碑は建物の中に守られていました。多胡碑をこれからも守っていくために、普段はカギをかけて犯罪などを防止しているそうです。写真3-Bは多胡碑が中にある建物の前で撮影した写真です。それでも、ガラス越しにはっきりと見ることができました。写真3-Cは、そこで撮影した多胡碑の実物の写真です。また、ボランティアの方にお話を伺うこともできました。

次に、記念館の建物の中へ行きました。館内では、世界の古代文字の体系や漢字の歴史、上野三碑を含む日本の古代碑の複製品や周辺の遺跡から出土した考古資料などが展示してあり、たくさんの資料などを見て、より深く多胡碑のことを学びました。上映ビデオを見たことで、多胡碑が建てられた目的なども分かりやすかったです。それに、多胡碑だけでなく、他の上野三碑のことも分かっておもしろかったです。上野三碑のレプリカが置いてあったので、近くで見ることができました。写真3-Dは、記念館の中にあった多胡碑のレプリカとの写真です。それに、三碑に関連する人物も、学ぶことができました。写真3-Eは、私が訪れたときに実施されていた「こどものためのコウスケサンピ～三碑に登場するのはどんな人?～」という企画チラシの写真です。また、写真3-Fは、「上野三碑人気投票-登場人物編-」という企画が展示してある様子の写真です。私は、「羊」に投票してきました。



3-A



3-B



3-C



3-D



3-E



3-F

② 優れた書体の多胡碑

多胡碑に書かれている文字は、角張った力強い字です。江戸時代の学者によってその価値が紹介されると、多くの書道家が多胡碑を訪れました。また、拓本が韓国や中国などに渡り、お手本として現在も残っています。歴史的価値だけでなく、書道的価値も高い碑です。

Column 2

～拓本とは？～



4-A

拓本とは、石などに彫られた文字や模様を墨を使って紙に写し取ったもの。今でいうコピーのことです。版画と違って、向きも大きさもそのまま写すことができます。これによって碑文の内容や意味の把握が、より便利になります。



4-B

始まりは、1800～1400年前の中国と言われていています。紙がたくさん使われるようになって広まり、1400～1100年前頃に流行しました。日本では、江戸時代の頃から、学者が歴史の資料を記録するために、石碑や金属製品の拓本をとるようになりました。

写真 4-A は、多胡碑の拓本の写真です。写真 4-B は、記念館での上毛三碑の拓本展示の写真です。

③ 古代の様子を伝える石碑

多胡碑からほど近い高崎市山名町には、「母の霊をなぐさめるために建てた」という記述がある「山上碑」があります(写真 4-C)。山上碑は、名前の通り山の上であり、そこに行くまでの道も、車が一台しか通れないような細い道でした。専用の駐車場があり、山上碑に辿り着くまでの階段がとても長く、大変でした。「イノシシに注意」という看板があり、怖いのでやめようとも思いましたが登りました。写真 4-D は、山上碑の前で撮った写真です。山上碑も多胡碑と同様、建物の中に囲まれていました。山上碑のとなりには、山上古墳がありました。中に入ってみようと思いましたが、古墳の前に「カマドウマに注意」という看板があったので、やめました。また、「先祖の供養をした」という記述がある「金井沢碑」も近くにありますが(写真 4-E)。いずれも奈良時代以前に建てられた石碑で、3つを合わせて「上野三碑」と呼んでいます。このように近い地域に日本の古代史を知る上で貴重な資料が集中している事は全国的にも珍しいそうです。



4-C



4-D



4-E

Column 3 ～上毛三碑かるた～

上毛三碑かるたとは、上毛三碑の魅力を、より多くの人に楽しみながら学んでほしいという思いで作られました。44枚の読み札には、上野三碑に関連する史跡や人物、出来事などが詠まれています。読み札は県内外から6751点が寄せられました。これを歴史の専門家ら6人による作成委員会で文言を微調整し、44枚を仕上げました。内容は三碑に関連したものや各地の遺跡に関連したものなど多方面に及んでいます。写真 5-A は「建郡の 誇りを刻む 多胡の古碑」という多胡碑の札です。また、写真 5-B は、「母父へ 想いを刻む 山上碑」という山上碑の札です。そして、写真 5-C は、「仏教の 広がり刻む 金井沢」という金井沢碑の札です。



5-A



5-B



5-C

3 多胡碑の研究 ～碑文・郡域・出土物・1300年～

(1) 多胡碑に書いてあること(銘文)

■銘文■

弁官符上野国片岡郡緑野郡甘
良郡并三郡内三百戸郡成給羊
成多胡郡和銅四年三月九日甲寅
宣左中弁正五位下多治比真人
太政官二品穂積親王左大臣正二
位石上尊右大臣正二位藤原尊

■読み方■

弁官符^{ふくわ}す。上野国の片岡郡・緑野郡・甘良郡并せて三郡の内、三百戸を郡と成し、羊に給いて多胡郡と成せ。和銅四年三月九日甲寅に宣る。左中弁・正五位下多治比真人。太政官・二品穂積親王、左大臣・正二位石上尊、右大臣・正二位藤原尊。

■現代語訳■

朝廷の弁官局から命令があった。上野国片岡郡・緑野郡・甘良郡の三郡の中から三百戸を分けて新たに郡をつくり、羊に支配を任せる。郡の名は多胡郡としなさい。和銅四(七一)年三月九日甲寅に命令が伝えられた。左中弁正五位下多治比真人(三宅麻呂)。太政官の二品穂積親王、左大臣正二位石上(麻呂)尊、右大臣正二位藤原(不比等)尊。

■解説■

碑文は、中央政府の左中弁正五位下の位にある多治比真人から上野国に宛てて発行された和銅四年三月九日宣旨の公文書を略記したとみられ、後半三行には太政官の穂積親王、左大

臣の石上尊(藤原不比等)など、当時の政府高官の名を挙げて、建郡を正統化していると考えられます。

〈2〉「胡」の字の意味と渡来人の仕事

① 「胡」とは

父と祖父に、多胡碑のことについて尋ねると、「胡」という文字には外国の意味があると教えてくれました。そのため、「胡」という文字がつく熟語を考えてみました。

胡瓜/きゅうり 胡麻/ごま 胡椒/こしょう 胡人/ごじん 胡散臭い/うさんくさい(い)など

確かに、外国の意味がある熟語が多いと思いました。胡瓜や胡麻、胡椒は、外国から入ってきた食べ物であることから、この字がついたと予想されます。胡人は、中国人にとって、北方や西域の諸民族をいう総称です。つまり、中国人から見て外国人のような、違う地域の人達のことを言っています。そのため、この熟語にも外国の意味があると考えられます。また、胡散臭いという言葉は、胡乱(うろん)という言葉が語源になっています。

胡乱というのは室町時代に中国から日本に輸入された言葉で、中国北方・西方の民族「胡(えびす)」が中国を攻撃した時、中国の住民が慌てふためき混乱が生じたという故事が由来になっているそうです。この言葉も外国から輸入された言葉が由来になっているため、外国に関係のある言葉だと分かり、「多胡」が「多くの外国から来た人」の意味でそれが「渡来人」ではないかと思われる。

② 渡来人の仕事(生業)

日本に配置された渡来人は何の目的でどんな仕事をするために朝鮮半島から来たのか調べてみました。東国では馬の生産が大事な仕事だったようで、養蚕、須恵器・土器作り、鉄器や土木工事もしていたようです。それらの仕事で実績を上げて評価され、力を持った人が多胡郡を作ったのだと考えます。

〈3〉多胡碑碑文のナゾ

① 「給羊」のナゾ

碑文の多くの問題は解明されつつありますが、多胡碑に書かれている文章の二行目の下に「給羊」という記載があり、羊に給うとは、どういうことなのでしょう。「羊」とは、何でしょう。人名? 多胡碑に書かれている他の人は、姓名で書かれているのに、なぜ「羊」一文字? 「羊」については、様々な説があります。次に比較検討してみます。

② 3つの仮説 ～「羊」とは～

従来の諸説は、①誤字説 ②省画・通用字説 ③動物説 ④方角説 ⑤人名説がありますが、具体的には次のように考えられます。羊太夫伝説と続日本紀を参考に付けました。

その1

朝鮮半島に多い姓である、「姜」。チンギス=ハンや、フビライ=ハンなどと同じで、身分が高いことを表します。そのため、姜さんに郡の責任者を任せただから、碑に名前があった、と考えること

ができると思います。現在、多胡碑は、甘楽郡にあります。甘楽という言葉は、朝鮮半島の加羅(伽耶)からきたという説があります。つまり、甘楽郡が朝鮮半島と関係があったと考えると、「羊」とは、朝鮮半島の人だと考えます。

その2

羊と言えば、遊牧民を思い出すことができます。遊牧民はモンゴル系やペルシア系が多いです。つまり、朝鮮半島よりも西の人達です。群馬には現在でも南牧という地名があります。南牧は遊牧民と関係があるのではないのでしょうか。つまり「羊」とは、モンゴル系やペルシア系の人だと考えます。

その3

続日本紀によると、「たまう」という言葉には全て「賜」の字を使っています。それなのに多胡碑には「給」の文字が使われています。そのため、給羊を、「羊に給う」と勝手に解釈してしまった可能性があるのではないかと考えます。

諸説あることは知りましたが、私は、この地に「羊」と名乗る渡来人の権力者がいたと考えたいです。その方が次に研究する内容に繋がると思いました。

羊太夫伝説

「羊太夫」が主人公の物語。とても足が速く、多胡郡と都との間を1日で往復する「羊太夫」というキャラクターは、14世紀には作られていたようです。現在は群馬県西南部を中心に、近くは埼玉県、遠くは愛知県名古屋市でも伝えられていますが、地域によって内容や設定に少しずつ違いがあります。

多胡碑の「羊」は、江戸時代には伝説の「羊太夫」として語られていましたが、そもそも、伝説が多胡碑の羊から生まれたのかどうかは、分かっていません。名は、多胡碑の羊から名付けられたのかもしれませんが、モデルは別にいた可能性もあります。かつて、多胡碑の羊を知ろうとした人々は、伝説の羊太夫のモデルとなる出来事や人物を、歴史に求めました。逆に、多胡碑の研究の成果が伝説に取り入れられ、物語が変わることもありました。

こうして、羊太夫伝説は、多胡碑の周囲の人々に影響を与えながら、一方で少しずつ形を変えながら、今も語り継がれています。

しかし、「羊太夫伝説」が作られたことで、羊と羊太夫が同一人物と認識されてしまったためだけで、羊は人間ではないという説もあります。

『続日本紀』

続日本紀(しょくにほんぎ)とは、平安時代初期に編纂された勅撰史書。『日本書紀』に続く六国史の第二に当たります。菅野真道らによって延暦16(797)年に完成しました。文武天皇元(697)年から桓武天皇の延暦10(791)年まで95年間の歴史を扱い、全40巻から成ります。

『続日本紀』和銅四年三月辛亥(六日)の条には、「上野国甘良郡の織裳・韓級・矢田・大家、緑野郡の武美、片岡郡の山等の六郷を割いて、別に多胡郡を置く」とあって、多胡碑の記述と合致

します。当時の規定では、一郷は50戸からなるため、多胡郡の六郷の戸数と碑文の「300戸」も一致しています。しかし、この続日本紀に、「羊」なる人物について、全く記載がありません。

Column 4 ～勅撰史書とは～

天皇(国家)の命令で編纂された歴史書のこと。全部で6つあり、『日本書紀』『続日本紀』『日本後紀(にほんこうぎ)』『続日本後紀』『日本文徳天皇実録』『日本三代実録』があります。

歴史書以外に勅撰和歌集や、勅撰詩歌集があります。『古今和歌集』や『新古今和歌集』は勅撰和歌集の一つです。

〈4〉多胡郡のエリアと出土品等からの力の推測

① 多胡郡域

多胡郡は片岡郡、緑野郡、甘良郡3郡の一部を集め、次の六郷、「山部」、「武美」、「矢田」、「辛科」、「織裳」、「大家」があります。

片岡郡から割かれた「山部郷」は、鑄川と鮎川の合流付近、藤岡市白石・上落合の対岸に当たる鑄川左岸、現在の高崎市山名町付近が比定地とされます。緑野郡から割かれた「武美郷」は、藤岡市白石・上落合に西接する鑄川右岸の河岸段丘地形の第二段丘に中心を置く旧吉井町黒熊地区から多比良地区を中心とした部分が想定されています。甘良郡から割かれた「矢田郷」は段丘面の旧吉井町矢田から多胡に掛けての一带を中心としていたようです。「辛科、織裳郷」は矢田・多胡地区の西側を北流する大沢川を挟んでの対岸の旧吉井町神保地区を中心として一帯が辛科郷に該当するようです。大沢川から第二段丘面に上がり西にたどり天引川を崖下に望む位置、ここが甘良郡甘良町との境界部分になるようです。「大家郷」は多胡碑のある鑄川右岸の第一段丘面の旧吉井町池の周辺一帯のようです。

このような建郡は全国でも極めて異例で、この地区の特性を物語っているようです。(写真8-A参照)



8-A 上毛三碑の位置・郡や郷の場所

② 集落域や古墳からの出土物から推測される多胡郡成立直前のこと

私が特に関心を持ったのは、まず矢田郷等の集落遺跡から多量に出土した「滑石製紡錘車」^{かきせきぼうらいしゃ}です。これは糸を紡ぐときに使われるもので、布の生産が盛んであったことが分かります。日常品はもちろん、献上品としても使われた反物が盛んに生産されたと推測されます。

次に、古墳から出土した埴輪の大半は多胡郡内で生産されましたが、埴輪に伴い出土した須恵器の大半は藤岡産の可能性が強いとの研究があると知りました。

さらに多胡郡や郷名が刻まれた瓦が上野国分寺跡から出土していることや古窯跡群が確認されていることなど、瓦の大生産地であることが分かります。これらのこのことから、私は多胡郡建郡前からこの地区の豪族や渡来人が強い力を付けてきたのではないかと思います。

〈5〉 多胡郡建郡から 1300 年のロマン

この研究を始めて間もない頃、世界文化遺産の官営富岡製糸場は群馬県内で焼いた煉瓦が使われたと知りました。旧多胡郡に近い現在の甘楽町福島にある笹森稻荷神社付近から煉瓦に適した粘土を発見し、その周辺で煉瓦を焼成したものと分かりました。

富岡製糸場設立主任として主導的役割を果たしたのは渋沢栄一で、設置は栄一のいとこ尾高惇忠に命じられました。そして、煉瓦の焼成は配下の葦塚直次郎が瓦職人を束ね、外国人技師バステアンから指導を受けて、試行錯誤のすえ成功しました。それが富岡製糸場の建設に使われました。

私はこのことを知ってから、研究の一つ一つが、上野国に来た渡来人が多胡郡を建郡し繁栄した歴史と繋がっているのではないかと期待するようになりました。

渡来人の先進性とそれに応えた上野国の人達の努力と勤勉性が、布の生産や土器から瓦作成の技術を高めたとします。その時に東国の人達が始めた生産技術が約1200年後の明治の時代にその地域に受け継がれ、再度外国人の力を借りて近代的製糸工場へと繋がっているとしたらそれは素晴らしいことではないでしょうか。

渋沢家は養蚕や藍染の原料を製造販売することを生業としていました。群馬県藤岡市にも近い埼玉県深谷市の在で生を受けた栄一が明治維新により活躍の場を得て近代日本経済の父と言われる活躍をしたことと私の研究が繋がっているかもしれないと思うだけでも嬉しいです。

4 研究を終えて

結局、「羊」とはどういう人物なのか分からなかったですが、渡来人のことを深く学びました。今回の研究で分かったことや、楽しかったことがたくさんあります。多胡碑の現地調査をしたり、本などで調べたことをこのような長いレポートにまとめたりするのは初めての経験で、大変なこともありましたが、やってみると楽しいことの方が多くて、とても良い経験になりました。

現地調査は、資料館では多くのことを学びました。上毛カルタにも読まれている多胡碑ですが、知らなかったことの多さに驚きました。たくさん調べたことで、「昔を語る多胡の古碑」に、親近感を抱くようになりました。でも、立派な記念館があるのに、多胡碑のことをよく知っている

人は少ないと思います。ユネスコ「世界の記憶」に認定されたことすら、私は全く知らなかったです。素晴らしい多胡の古碑が群馬にあることをたくさんの人に知ってほしいと思います。

また、富岡製糸場の関連遺産で養蚕家田島弥平旧宅が伊勢崎市にあることもあり、より誇りと親近感が湧きました。今後は友達や家族に調べたことを伝え、先人達がしてくれたように、私達も多胡碑のことを語り継いで行きたいと思います。上野三碑は私達に、渡来人のことや先人の知恵、思い・考えなど、たくさんの歴史・文化をタイムトンネルのように教えてくれました。

上毛三碑かるたの「え」、「永遠に地域で守る上野三碑」にもあるように、これからもずっと大切にしていきたい「上野三碑」です。

10-A 永遠に地域で守る 上野三碑



5 参考引用図書等

○文献(記念館で無料でもらったパンフレットなどを含む)

◇多胡碑が語る古代日本と渡来人(土生田純之・高崎市編吉川弘文館)

◇上野三碑

◇吉井文化財マップ 上野三碑の里をめぐる

◇ユネスコ「世界の記憶」上野三碑ガイダンス施設 高崎市多胡碑記念館

◇知れば、もっとぐんまが好きになる! 「上毛かるた」で見つける群馬のすがた

◇東国文化副読本～古代ぐんまを探検しよう～

○インターネット記事

◇胡人とは-コトバンク <https://kotobank.jp/word/胡人>

◇胡散臭いの意味・由来・語源は?そもそも胡散とは何なのか? zatugaku1128.com/usankusai

◇多胡碑とは?書道専門店大阪教材社 www.osakakyouzai.com/osaka_kyouzai/?p=3739

◇上毛三碑:多胡碑|高崎市 <https://www.city.takasaki.gunma.jp/info/sanpi/03.html>

◇上野三碑ガイダンス施設 多胡碑記念館 www.city.takasaki.gunma.jp/docs/2013121900164

◇世界の記憶-Wikipedia <https://ja.wikipedia.org/wiki/世界の記憶>

◇羊太夫伝説と多胡碑の謎 home.catv-yokohama.ne.jp/77/yowa/takohisin.html

◇続日本紀-Wikipedia <https://ja.wikipedia.org/wiki/続日本紀>

◇上野山碑 多胡碑実物初御目文字 拓本

<https://junintoiro634.blog.fc2.com/blog-entry-2985.html>

◇高句麗 <https://www.y-history.net/appendix/wh0301-081.html>

◇群馬「上毛三碑かるた」が完成 ユネスコ「世界の記憶」

<https://www.sankei.com/article/20200422-6XGKX6WRWFNLNEK2K5TDTFS62U>